



現状の課題

実践センターと文法経校舎に囲まれたオープンスペースは、共通教育棟、図書館、浪高庭園、食堂などが近接する公共性の高いエリアであり、大阪大学でも最も賑わいのある空間となっている。また、両端に中山池と乳母谷池が隣接し、両池との視覚的つながりや、親水性を確保することにより、大学のシンボルとして相応しい環境に生まれ変わるポテンシャルを有している。しかしながら、現状は、大量の駐輪、鬱蒼とした庭園、図書館による圧迫などの問題が顕在化しており、シンボル空間形成の可能性が活かされていない。

計画の方針

オープンスペースの再編、浪高庭園の整理、代替駐輪場の整備、建物とオープンスペースとの関係の改善により、シンボル空間としての質を総合的に形成していく。

● 乳母谷池側の親水性の改善

池の水際に、テラスやデッキなどを設けて、池をながめたり、憩うことのできるスペースをつくる。

(中山池側は学生交流棟整備により改善済み)

● グランドコーナー部分の整備

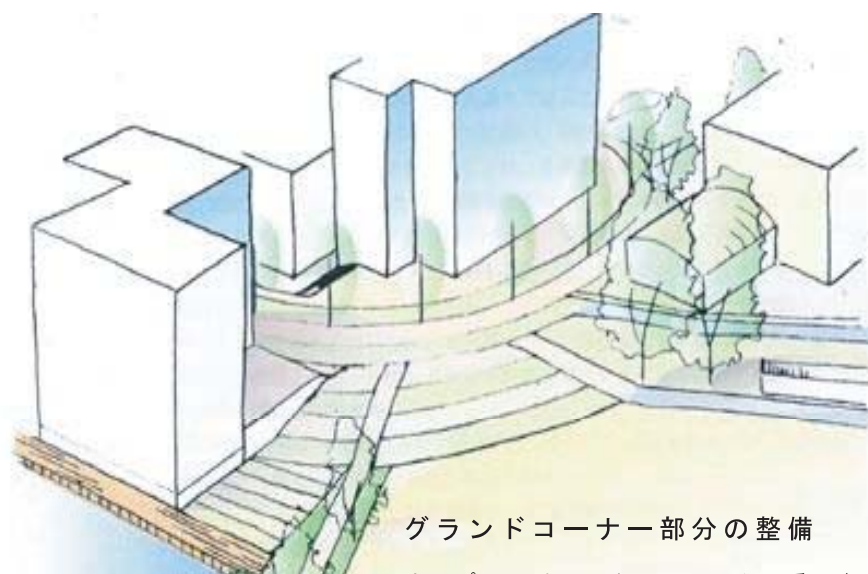
東西と南北の幹線街路が会う重要な結節点であり、視線がグランド側に開ける場所でもあるため、オープンスペースネットワークの重要なポイントとして、広場化する。モニュメント設置場所の有力な候補。

● 現駐輪スペースの代替駐輪場を整備

オープンスペース中央にある、現在の駐輪スペースを解消し、校舎側に駐輪場を代替する。

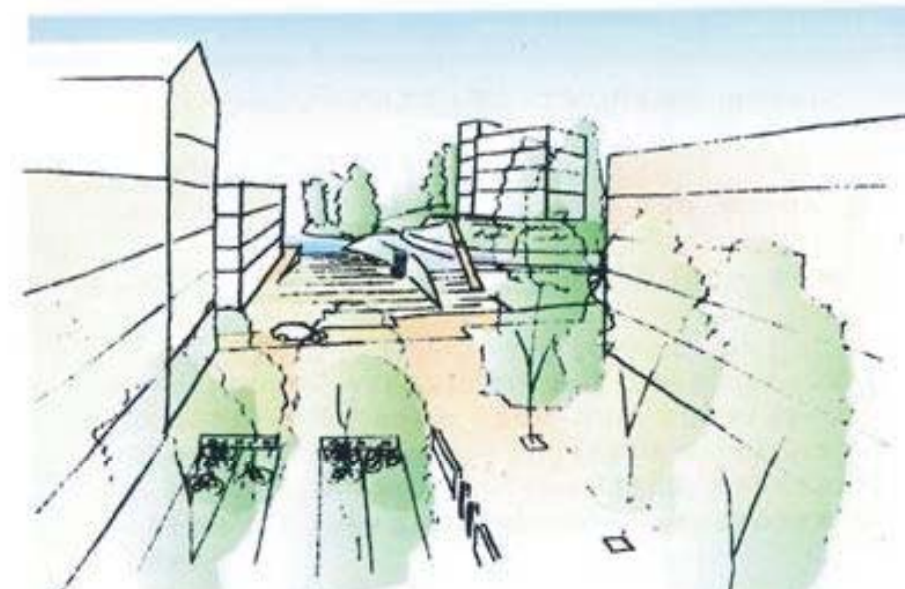
● 浪高庭園の再生

芝生等に再整備することにより、人が入り、集い憩えるスペースとする。



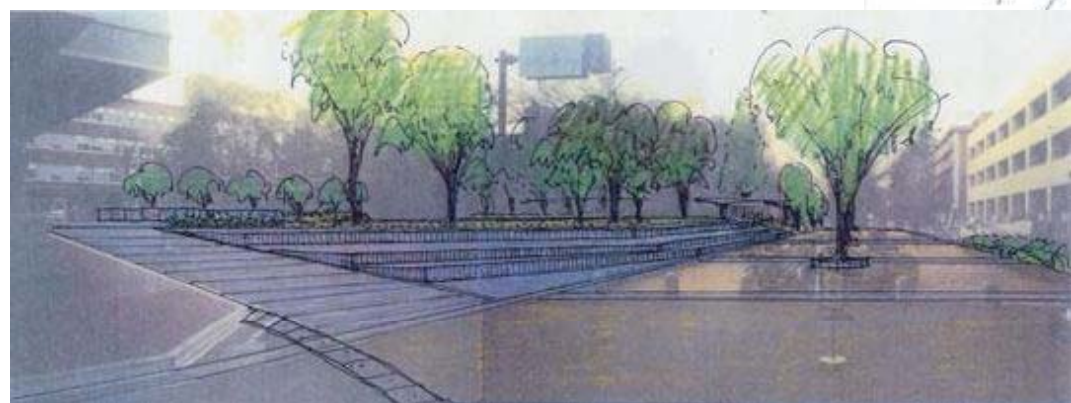
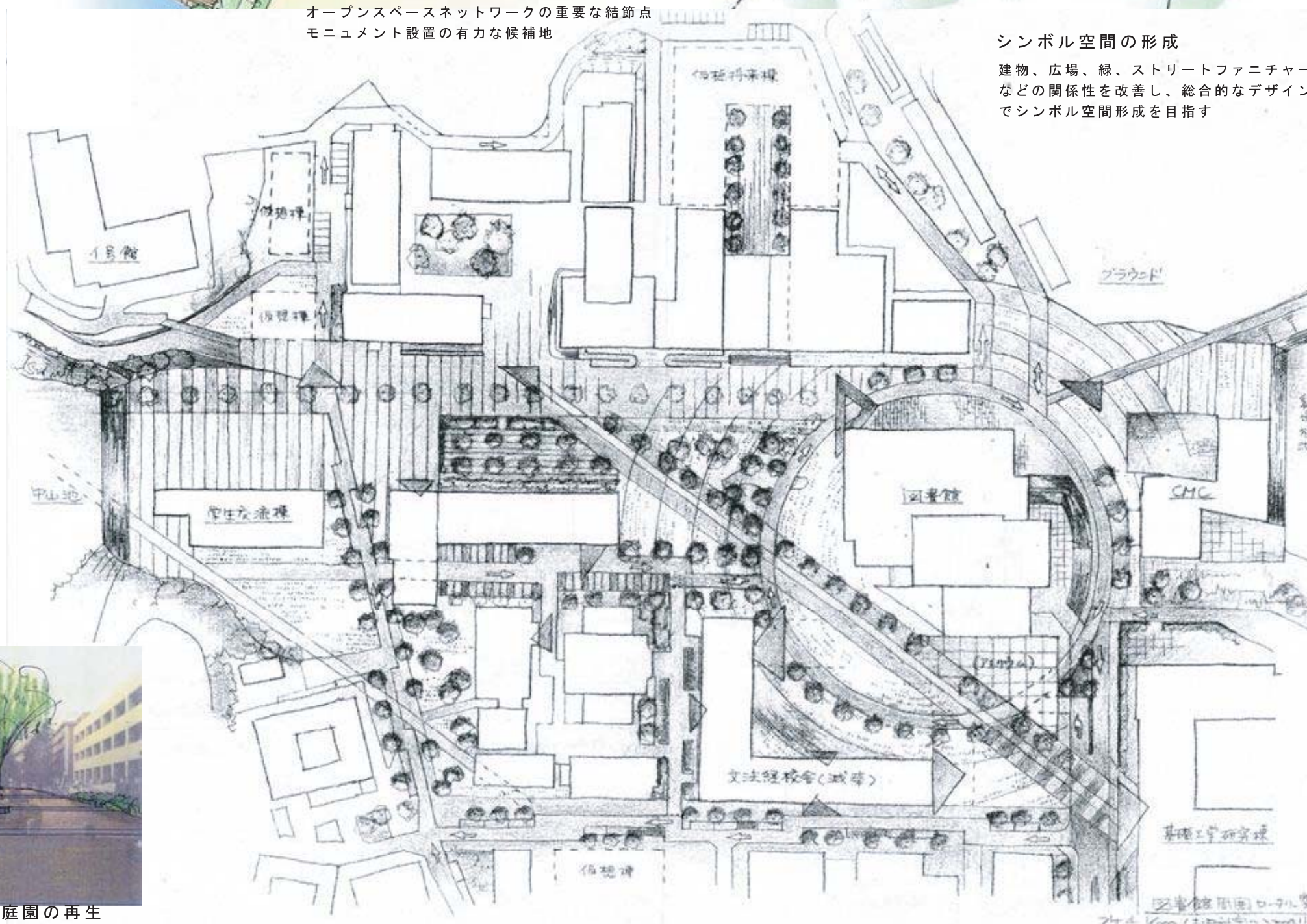
グランドコーナー部分の整備

オープンスペースネットワークの重要な結節点
モニュメント設置の有力な候補地



シンボル空間の形成

建物、広場、緑、ストリートファニチャーなどの関係性を改善し、総合的なデザインでシンボル空間形成を目指す



浪高庭園の再生